

## ノスリ



県指定準絶滅危惧(NT)  
高姫にて

(撮影：桐原佳介)

■トビと違うタカがいたら

南部町の里山を舞うタカの仲間には、オオタカやハヤブサなど約12種類が観察されます。トビよりも小さく、カラスよりも少し大きく、尾羽は扇型。さらに双眼鏡や望遠鏡で姿を確認してみると、翼の前縁に濃い斑紋が付き、お腹は白っぽく、茶色い腹巻きがちらっと見えたら、きっとそれはノスリちゃん。黒っぽく見える大きな目がチャームポイントのタカです。寒くなると、町内各所で田畑があるそばの斜面林などに見かけるようになります。

■子育てはモグラ頼り！

以前NHK「地球！ふしぎ大自然」でノスリの子育てが放送されました。その内容で、今まで知られていなかったノスリとモグラの意外な関係が明らかにされました。巣に設置した隠しカメラでノスリが雛に与えるエサを分析したところ、なんと、子育て期間中に238匹のエサを運び込み、そのうち123匹、52%がモグラだったのです。この映像で、食べ盛りの数羽の雛を育て上げていたのは里山の田畑に棲むモグラであることが証明されました。しかし、モグ

ラは地下の生き物、空を飛ぶノスリがなぜモグラを捕まえられるのでしょうか？

■目印はモグラ塚！

秘密はモグラ塚にありました。私は、以前芝生広場や空き地でモグラ塚の土がわずかにごそごそと動くところを見たことがあります。ノスリは数百メートル離れた場所から、このモグラ塚が動くのをキャッチして、その瞬間モグラ塚に脚を突っ込み、土の中にいたモグラを驚つかみにしてさらっていくのです。土手や畦に穴を開けてしまうやっかい者のモグラですが、それをおのずと増えすぎないように捕食しているのがノスリだったのです。

■南部町で子育てしてるかな？

現在、南部町ではまだノスリの繁殖は確認されていません。これから、寒くなるとタカの仲間は伴侶探しの婚活シーズンになります。人の農業の営みのそばで命をつなぐノスリ、無事相手を探してこの街のどこかで巣作りをしてくれたらと思います。

自然観察指導員 桐原真希